

経営比較分析表（平成29年度決算）

沖縄県 伊平屋村

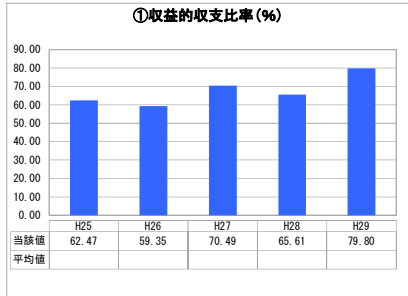
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	100.00	100.00	1,955

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,258	21.82	57.65
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,247	0.48	2,597.92

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



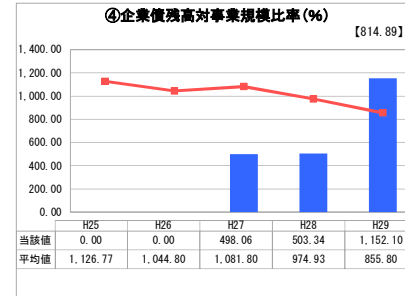
「単年度の収支」



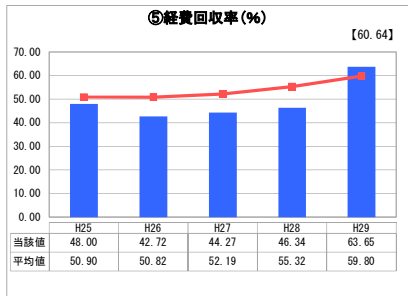
「累積欠損」



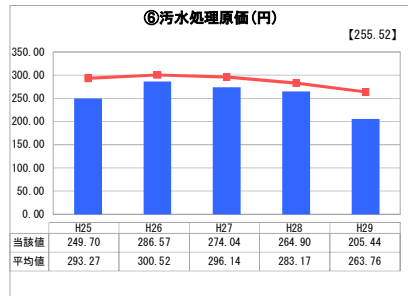
「支払能力」



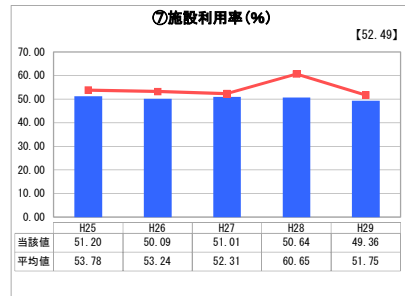
「債務残高」



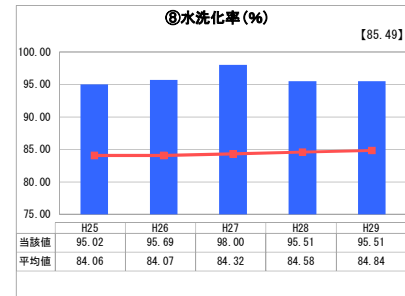
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

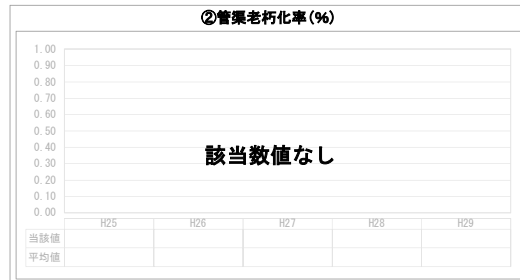


「使用料対象の捕捉」

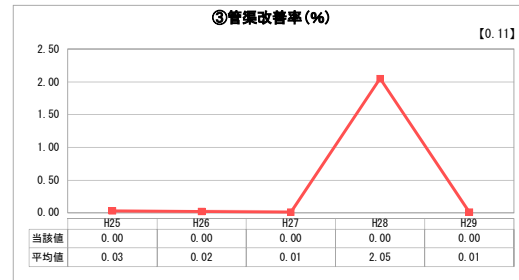
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支率
 昨年度からの改善は見られるものの、依然として施設の改修のリスクをはらんでいることから引き続き経費の見直しや健全運営に心がける。修繕費の標準化や回収業務の強化、料金改定も視野に入れた説明会の開催等を行い、当該収支比率の向上に取り組む。

④企業債残高対事業規模比率
 平成26年度より施設機能強化事業を実施しており、今後地方債の償還により増加が見込まれる。適宜、企業債の借入時には十分検討し、運営を行う必要がある。

⑤経費回収率
 平成29年度は、類似団体平均値より上回り改善傾向に見える状況ではあるが、依然として他会計からの繰入金による運営のため、使用料の増、接続率増などの営業収益を伸ばす対策が必要と考える。

⑥汚水処理原価
 類似団体平均を下回っているが、接続率の向上による有収水量の増加等の取組は必要である。

⑦施設利用率
 全施設整備が完了し、概ね類似団体施設平均と同値を維持しており、現在、機能強化事業を実施している施設の完了で機器等の更新に一定の目処が立った。今後は、施設の耐用年数等を鑑み計画的な更新整備を行う必要がある。

⑧水洗化率
 施設整備は完了しており、類似団体平均値を上回っていることから良好だと判断される。しかしながら水洗率100%に向けて継続的な取組が必要である。

2. 老朽化の状況について

管路の維持管理のため管路内の清掃を実施しており、比較的安定している。今後も管路機能維持を図って行き、長寿命化に向けて取り組んでいく必要がある。

全体総括

全域において接続されている。老朽化施設の機能強化事業も30年度で終了予定であり、施設機器の過負荷の解消ができ、維持管理費の低減が見込めるが、事業実施に伴う地方債の増加もあることから、運営費を鑑み適切な料金設定を検討する必要がある。また、料金高騰を防ぐためにも処理費の低減に努めていく。そのために、こまめなメンテナンスを継続して実施する事が当面の課題である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。